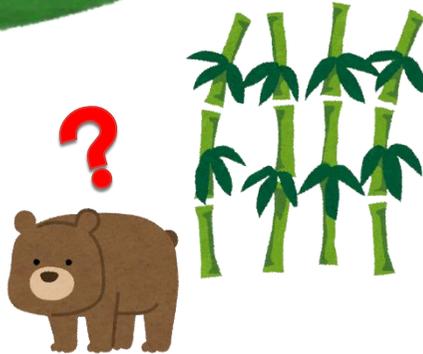


YAボランティア体験 こんなことをしました！



1日目 8月10日(金)
2日目 8月15日(水)

あいさつ・自己紹介
図書館についての説明・館内見学
書架整理
POP作り
完成したPOPの発表会！
YAコーナーに展示
YAコーナー意見交換会



カラー版を
図書館ウェブサイトの
「YAページ」
→「オススメ本」
にて公開中。

過去のヤングスクラッチ
色々な情報・お知らせも
もりだくさん！
是非、アクセスしてくだ
さい。

羽村市図書館

参加して下さった
皆さん
ありがとうございました！



☆来年まで待てない方へ☆

図書館では継続的にボランティア活動ができる中高生の方を（随時）募集
しています！本が好きな方・イラストが得意な方、そうじゃない方も大歓迎！！

お気軽にご連絡ください♪

活動内容：書架整理、POP作り、コーナー作りなど

YOUNG SCRATCH

2018年度 第2号 AUTUMN

夏のYAボランティア報告号

ボランティアの中学生・高校生が作ってくれたPOPを紹介します。

≪POP(ポップ)：1枚の紙で本の魅力を伝えるもの≫



『お面屋たまよし』
石川宏千花／著
T913.6／イ 講談社

『六百六十円の事情』
入間人間／著 T913.6／イ
アスキー・メディアワークス



YA展示コーナーにて、展示中！

★★★10月14日(日)まで！ぜひ見に来てください★★★

羽村市図書館 ☎042-554-2280

バージンロード 文・高橋まり 726.6
絵・伴山優希 タ

おほちゃんは暑い夏の日にくわたく
かわいらしい女の子。
お父さん、お母さん、2人のお兄ちゃん
に囲まれ、幸せに暮らしていたある日
お父さんが末期のガンであることが
判明しました。

「おほのウェディングドレスが見たい。」
というお父さんの願いを叶えるために
8歳のおほちゃんは純白のドレスを
着て、お父さんとバージンロードを
歩くことにしました。



『バージンロード』
高橋まり／文 T726.6/タ 北水

**本当のしあわせ
って何ですか?**

木はしあわせでした
少年と木の心温まる「本当の幸せ」を見つ
ける涙の物語

それで木はしあわせでした

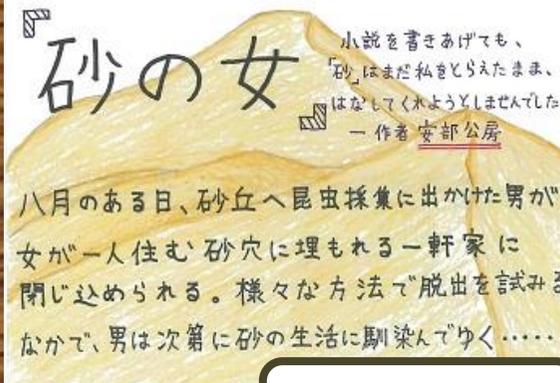
おおきな木 あすなろ書房
シエル・シルヴァスタイン 著
村上善樹 訳
726.6/シ



『おおきな木』 シエル・シルヴァスタイン／作
T726.6/シ あすなろ書房

砂の女 小説を書きあげても、
「砂」はまだ私をとりえたまま、
はなしてく木ようしませんでした。
— 作者 安部公房

八月のある日、砂丘へ昆虫採集に出かけた男が
女が一人住む砂穴に埋もれる一軒家に
閉じ込められる。様々な方法で脱出を試みる
なかで、男は次第に砂の生活に馴染んでゆく……



『砂の女』 安部公房／著
T913.6/ア 新潮社

天使は奇跡を希う 七月隆文
文藝春秋 913.6/ナ

— ある日、1年くの7ラズビ
羽が生えた「怪物」の天使が転校してきた—
天使の嘘を知ったとき、奇跡を願う

「私を天国に帰して」



『天使は奇跡を希う』
七月隆文／著
T913.6/ナ 文藝春秋

サマーサイダー

幼馴染みの倉田三太、三浦蒼、穂積は、
廊下に住んだ中学の最後の卒業生。
切ない三角関係の中心には中学の担任に関する、「秘密」が。
たのびさわやかな青春小説と思われながら、
ラストには、ぐんぐんとおののく展開が待たせられています。
ぜひ、夏に読んでみたい一冊です。

壁井ユカコ
913.6/カ



『サマーサイダー』
壁井ユカコ／著
T913.6/カ 文藝春秋

きまりって何?

あなたの小悩みや疑問を解決します!
一度はみんなも考えた事、思った事あるはず!!
これを読めば、「なるほど」「そうなんだ」と
思うように(◡‿◡)

楽しく言売める事ができます!

著者 鶴見俊輔
編集 後藤 晶文社
出版 913.6/ツ

『きまりって何?』
鶴見俊輔／著 T376/ツ 晶文社

**キミがくれた希望のかけら
オスカー** はどこへ?

いなくならた理由を探しなから
友情と恋心と10代が思っている物語

あなたもこの本の世界に入、ておませませんか?

発行者: 飯田 敦彦
発行所: 株式会社フレーベル館
請求記号: 923/フ



『キミがくれた希望のかけら』 セアラ・ムア・フィッツジェラルド／作
T923/フ フレーベル館

葉桜の季節に君を想うということ

913.6/ウ
歌野昌午 著

桜が紅葉することを知っているだろうか?
花が満開でチヤホヤされる時期はほんの少しだけ。
しかし、それ以外の時期でも、桜はちゃんと生きている。
最後に驚きの事実が明かされたとき、タイトルの意味が
わかる... 多くのミステリー好きがすすめる
必ず二度、三度と読みたくなる究極の徹夜本



『葉桜の季節に君を想うということ』
歌野昌午／著 913.6/ウ 文藝春秋